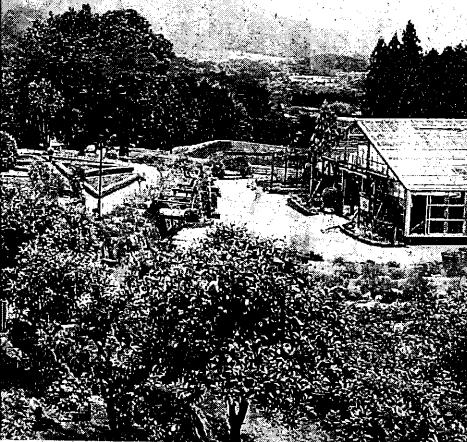


於保知盆地を見下ろす

カメラ紀行



於保知盆地を見下ろす丘陵地帯に広がる公園



公園のマスコットキャラクター「はっち君」園内のあちこちに座っている

目指せ！世界ジオパーク

このほど隠岐島前の海士町豊浦地区で、日本国内で馬暖流がもたらす温暖多湿もごく一部でしか確認されていない珍しい外来植物が発見されました。その名も「アフリカヒメアヤメ」。

発見したのは、植物なら「隠岐にこの人あり」と誇りたい海士町の研究家、丹後亜興さん(70)です。

丹後さんいわく、「このアフリカヒメアヤメは大丈夫なはずだけど、外来種が来た場合、島の植生を破壊しないかが心配」。そう、隠岐には本土と異なる独自の生態系が残されており、

それは大変貴重なもの。対馬暖流がもたらす温暖多湿な環境や、火山由来の土壌条件などによる多種多様な植物は、隠岐ジオパークの大きな魅力です。

今回は、中ノ島(海士町)の希少植物を少しご紹介します。植物ハカセ・丹後さんが暮らす豊田地区は火山地形の明屋海岸で有名ですが、実は町内で最も「手付かずの自然」が残る場所。「松島と知々井岬が最高。隠岐の聖域！」と目を輝かせるハカセ。なんとこの無人島・松島(豊田)と知々

隠岐魅力UP

島根

希少植物との共存



絶滅が危ぶまれるヤマトキソウ—海士町豊田地区の一角で、丹後亜興さん撮影

井岬(知々井)は、江戸時代には幕府の直轄地で、地元民は立ち入り禁止。ゆえに、研究者が「ありえないに昔ながらの自然がそのま」と驚く植物分布(海岸沿いに北方系と南方系の植物が一緒に生えていたり「」が見られ、世界的な希少種が道端に群生していたりする、とんでもないエリアです。例えば初夏に咲くタケシマシシウドは、鬱陵島(韓国の絶海の孤島)の固有種とされていますが、日本のここにもあります！ マルバウマノスズクサは国指定の絶滅危惧種で国内に約200株(島後にも数株)しか残っていないに数株)しか残っていないにも関わらず、豊田にはなぜか群生。ランの一種、ヤマトキソウは「数年後には日本から絶滅しそうで怖い」と丹後さんが本気で心配する植物。生育地は非公認ですが、ちょうど今ごろは人の行かない秘密の場所

で楚々とした純白の花を咲かせていることでしょう。最近では隠岐ジオパークが有名になり、島の植物に関心をもつ方が増加中。無茶な採取は種の存続に関わる大問題ですが、「ここにはそういう珍しい植物が一緒に暮らしているんだ、隠岐には古い特殊な環境が残っているんだ、と知ることとはとてもいいね」。

ジオパークは、人間も全部ひっくるめてその土地の自然を守る「大地の公園」のこと。隠岐独特の風土が育む植物たちと、この狭い島で共存していける自分たちでありたいと、切に願う今日このごろです。

(海士町総務課情報政策係 岡本真里栄)

すつきり ワイドに きょうつ3ページ